

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用	
	性・年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置	
1	男 70代	腎細胞癌（結腸癌，リンパ節転移）	37.5mg 12日間	<b>スティーブンス・ジョンソン症候群</b> ＜前治療歴＞ 手術歴：根治的右腎摘除術，S状結腸切除術	
				投与5日前	本剤投与目的で入院した。
				投与1日前	PS：1。
				投与開始日	腎細胞癌に対して本剤 37.5mg/日の投与を開始した。
				投与12日目 (投与中止日)	午前，全身そう痒感を訴えた。 夕方，意識状態の低下，言葉がうまく出てこない（構語障害），尿失禁もあり，歩けなかった（歩行障害）。 本剤の投与を中止した。
				中止1日後	午前，胸腹部・背部・上腕・口角・顎に発赤が出現し，眼脂，口内痛もあった。 約2時間半後，体温が38℃に上昇した。 夕方，皮膚科を受診した。スティーブンス・ジョンソン症候群（SJS）の疑いと診断し，左上腕の皮膚生検を施行した。 脳CTでは出血・梗塞なく，MRIでは加齢性変化のみであった。 眼科も往診し，点眼薬を処方された。 メチルプレドニゾロンコハク酸エステルナトリウム 1000mg/日の投与を開始した。 【診断時の皮膚症状】 皮疹の性状：紅い，点状～斑状，体幹に強く，四肢にも軽度，眼球結膜（発赤，眼脂），口囲びらん，口腔粘膜発赤 水疱形成：なし 粘膜疹：あり（口腔粘膜発赤，結膜充血） 自覚症状：あり（皮膚そう痒感）
				中止2日後	発疹は持続，失禁も持続，ろれつは回らないままであった。
				中止3日後	メチルプレドニゾロンコハク酸エステルナトリウムの投与を終了した。
				中止4日後	発疹の増悪はなかった。ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム30mg/日の投与を開始した。
				中止5日後	発疹は軽減していた。
				中止7日後	ベタメタゾンリン酸エステルナトリウムを20mg/日に減量した。
				中止8日後	ベタメタゾンリン酸エステルナトリウムの投与を終了した。
				中止9日後	病理所見もSJSとして矛盾しなかった。プレドニゾロンコハク酸エステルナトリウム30mg/日の投与を開始した。
				中止12日後	構語障害は継続した。プレドニゾロンコハク酸エステルナトリウムを20mg/日に減量した。
				中止15日後	神経精神科を受診した。パーキンソン病ではないが，認知症はあると診断した。プレドニゾロンコハク酸エステルナトリウムを10mg/日に減量した。
				中止17日後	プレドニゾロンコハク酸エステルナトリウムの投与を終了した。
				中止18日後	皮疹は中央の皮下出血斑のみで消退した。SJSは治癒したものと考えられた。構語障害と歩行障害は軽減しているが継続していた。
中止19日後	SJSは回復した。				
中止28日後	近医，神経内科を受診した。構語障害は全身状態の低下および軽度の脳血管性認知症が原因であり，歩行障害は廃用症候群の可能性が高いとのことであった。				
中止42日後	構語障害と歩行障害は軽度に存在しているが，退院可能な状態となった。				

併用薬：センノシド，炭酸水素ナトリウム・無水リン酸二水素ナトリウム

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用	
	性・年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置	
2	男 70代	腎細胞癌（肺 転移，脳転移）	37.5mg 16日間	<b>多形紅斑</b> <前治療歴> 手術歴：腎摘除術，脳頭蓋内腫瘍摘出術 放射線治療歴：脳（γナイフ） 薬物治療歴：ソラフェニブトシル酸塩	
				投与1日前	PS：1。血小板79000/ $\mu$ L。
				投与開始日	腎細胞癌に対して本剤 37.5mg/日の投与を開始した。
				投与15日目	多形性紅斑および血小板減少（Grade 3）が出現し，入院期間の延長を要した。 <b>【診断時の皮膚症状】</b> 皮疹の性状：発赤，膨疹，全身性 水疱形成：なし 粘膜疹：なし 自覚症状：あり（かゆみ）
				投与16日目 (投与中止日)	本剤の投与を中止した。
				中止2日後	ステロイド外用剤の投与を開始した。
				中止19日後	多形性紅斑は消失した。血小板は63000/ $\mu$ L（Grade 2）に回復した。
併用薬：バルプロ酸ナトリウム，ファモチジン，酸化マグネシウム，タムスロシン塩酸塩，五苓散					